



津山の人・物・技術
など、明日誰かに自慢
したくなる津山のいい
ところを紹介します

ええとこ
いっぱい

津山

6
つやまじまん

慢

県北有数の規模を誇る山城 岩屋城跡(中北上)

室町時代、美作国の守護に任じられた山名氏の本城として築かれ、戦国時代まで存続した岩屋城。その規模と遺構の保存状態の良さから、昭和62年に岡山県の史跡指定を受けています。その歴史や見どころを、「岩屋城を守る会」会長 西尾一朗さん(写真右)、原田豊さん(同左)に聞きました。

数々の武将が奪い合った要所

岩屋城がある岩屋山からは、東に津山盆地、西に真庭市の落合、久世地域を見渡すことができ、南側には出雲往来が東西に延びていました。立地の良さから、山名氏、赤松氏、尼子氏、毛利氏、宇喜多氏など周辺の武将が岩屋城を奪い合い、次々と城主が変わりました。本丸、二の丸、三の丸を始めとした曲輪や、堀切、てのくぼり(堅堀)など城を守るための施設跡が今も残されています。

西尾さんは「中腹には、水が枯れたことがないという龍神池や井戸があり、水源がしっかりしていることも、この場所が選ばれた理由でしょう。この井戸水は、現在でも飲むことができるんですよ」と教えてくれました。

宇喜多、毛利の最終決戦

1582年、織田氏と毛利氏が備中高松城の合戦後に講和し、岩屋城は織田方の宇喜多氏のもつとされましたが、毛利氏は明け渡しを拒否。宇喜多氏は岩屋城の周りにいくつも砦を築き、土塁で繋いで完全に包囲しました。土塁は全長約12kmにもなります。「現在でも、8kmほどの土塁と12の砦の跡が確認できます。これだけはずい

りと残っているところは、全国的にも珍しい」と原田さん。山城好きな人が遠方から来て、土塁跡をぐるりと歩いて回ることもあるそうです。

素晴らしい史跡を後世に残したい

「多くの人に岩屋城の素晴らしさを知ってもらい、後世に残したい」と、県の史跡指定後に「岩屋城を守る会」を設立したそうです。ウォークラリーや初日の出を楽しむ会などイベントの開催や、登山道の整備など、会員125人が活動しています。「景色が良い本丸や馬場跡からの眺めを楽しんだり、家内安全や良縁祈願に御利益がある」という山王宮にお参りしたりと、岩屋城にはさまざまな楽しみ方があります。国の史跡指定を目指して、また『津山の西の玄関口』として、地域を盛り上げていきたいです」と語ってくれました。



※駐車場に登山道の案内図があります



岩屋城跡の取材で、周囲の砦と土塁の跡を見学しました。現在は植林された木々があり、砦跡から岩屋城跡を見通すことはできませんが、築かれた当時はそれほど木がなく、お互いが良く見えていただろうとのこと。包囲された毛利の兵はどんな気持ちだったのかと、戦国時代に思いをはせる取材でした。

いつもより早く駆け抜けた桜前線。毎年撮影している場所でも、花の咲き方や時間、人の流れによって、全く異なる表情を見せてくれます。広報担当者が撮影した写真を、20ページで紹介した市立図書館公式フリックで公開しています。満開の桜を見逃した皆さん、季節外れのお花見を楽しみませんか。

6ページの職員募集記事を作るため、新採用職員を撮影しました。撮影後の写真を一枚一枚眺めると、27人それぞれの個性が輝き、笑顔がまぶしく、思わず頬が緩みました。思えばわたしにも20数年前の入庁時には、こんな瞬間があったはず…。今も輝きを放っていると信じながら仕事に打ち込みます。

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuayama.lg.jp

生紙・植物性インクを使用している。顔料は大豆由来のインク。

